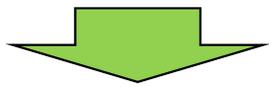


下刈作業時期の違いによる苗木の生長について

千葉森林管理事務所 池田 一穂

背景（国内の林業の現状）

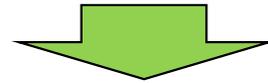
- 林業従事者の高齢化、減少
⇒施業技術の継承難
- 小規模・零細による森林経営意欲の低下



深刻な労働力不足
造林地の保育不足

背景（千葉県の現状）

- 2023年7月～9月では暑さ指数28以上の観測地点が県内の半数を超える日が72日。
- 30度以上の傾斜地にカヤ類の植生が旺盛な箇所もあり、下刈作業が難航。



過酷な労働環境

目的・調査方法

目的

千葉県における冬下刈の有効性について調査することで、施業省力化の可否を検討し、新しい林業実行プランにおける「夏季を避けた下刈期間の導入」の実現を図る。

調査方法

カヤ類の旺盛な地区の異なるAとBの2か所の林小班において、夏下刈区（9月下刈）、冬下刈区（12月下刈）を設け、それぞれに10m×10mのプロットを設置し、プロット内の苗木（スギコンテナ苗）の生長量と枯死率を3年間測定する。

冬下刈区(12月下刈)

夏下刈区(9月下刈)

10m×10mプロット
(冬下刈区)

10m×10mプロット
(夏下刈区)

生長量調査



・苗高
・根本径
を測定

※1プロット当たり21本程度
2,100/ha植

夏下刈後現況(A地区)



冬下刈区

夏下刈区

今後について

- ・調査期間は令和4年度～令和6年度の3年間にかけて行う。
- ・令和4年度の測定の結果、A地区(大多喜町)では各調査区での生長に差はなく、B地区(君津市)では冬下刈区の方が生長が良い状態であった。
- ・令和5年度の調査は2月上旬に行う予定。
- ・3年間の調査の結果、生長量や枯死率に差がない場合には、植栽後の年数も加味しつつ、冬季(12月以降)の下刈も検討する。